

文部科学省選定

ズッコケ三人組の 火あそび防止大作戦



監修 東京理科大学 総合研究機構 教授 工学博士 菅原 進一

企画意図

消防庁の統計によると、過去30年間に発生した火災の出火原因は、「放火(放火の疑いも含む)」「たばこ」「ガスこんろ」「火あそび」「たき火」が、順位の変動はあるものの、常に上位5位までを独占しています。中でも「火あそび」は、「火」「明かり」「炎」などに興味を持ち始める、2歳から6歳までの幼児によるものがほとんどです。

火あそびによる火災が多い原因は、マッチなどを使わなくても点火できるガスこんろやガスストーブを始め、便利になった日常生活が、火に対する警戒心を薄れさせたこと。また、核家族化、少子化などの社会環境の変化が、生活の知恵の伝承を失わせ、子供たちに“火の正しい扱い方”や、“火の恐ろしさ”を学習する機会をなくしたためだといわれています。

そこで、この作品は、子供たちに火の扱い方、火の恐ろしさを知ってもらうため、子供たちが親しみをもって見られるアニメーションで描いています。テレビ番組で人気のあった「ズッコケ三人組」を主人公にし、そのキャラクターの動きに目を奪われているうちに、火に対する知識を身につけてもらう工夫が施された内容となっています。

映学社・リバティアニメーションスタジオ作品

1 ある町の消防署で…

消防署で職業体験を受けるズッコケ三人組と数名の仲間たち。重たい消防服に、モーちゃんはフラフラ。

突然、「火災発生!」と、警報器の音が鳴り響きます。サイレンを鳴らし、出動していく消防車。

ズッコケ三人組はびっくりしながら、隊長へ質問します。「どんな火事が多いのですか?」「火災の原因はいろいろあるけれど、子供の火あそびで起こることも多いんだよ。」子供の火あそびによる火災が多いことを聞かされ、またびっくり。

2 タケシの家の火事

ある家庭の居間。一人で留守番するタケシ(5歳)がおもちゃで遊んでいます。と、その手にはライターが…。

窓外で、火の玉魔王が火あそびするタケシを発見。タケシの動きのすきをねらって、火災を起こさせます。あっという間に、火に囲まれてしまうタケシ。「お母さん、助けて!」

タケシの家の火災を見つけ、駆けつけるズッコケ三人組。消防車も現場に到着。すぐに、消火・救出活動。タケシが無事救出された後、消防隊と、火の玉魔王との戦いが繰り広げられます。

3 町の火事をなくそう

子供の火あそびで、恐ろしい火事が起こることを実感した三人組は、火災防止のポスターを作り、町の掲示板に貼りました。それを見た町の人々は感心し、町内会長は、町の防災訓練にも参加するよう、三人組に持ちかけます。防災訓練でも、三人組は大活躍!

4 火を消せ!

今度は公園で、落ちていたライターを拾った子供たちが、たき火をしてふざけ合っています。それを発見した火の玉魔王。息を吹きかけて、再び火災を起こします。炎につつまれる子供たち。「こわいよ〜!」

防災訓練に参加していた三人組は、偶然、その煙を見つけます。すぐに、バケツリレーをして消火活動を行う三人組と町の人々。

「う〜む、手ごわいやつらだ…」ズッコケ三人組と火の玉魔王との戦い。でも小さくなって、ついに消えてしまう火の玉魔王。

消防車が駆けつけてきて、「君たちのおかげで、大火事にならなくてよかったよ」と、感謝されるズッコケ三人組。子供たちも、「もう絶対に火あそびはしません」と、町の人々と約束するのです。

企画・制作

高木裕己

藤井正和

脚本・監督

高木裕己

制作・著作

株式会社 映学社

株式会社 リバティアアニメーションスタジオ

監修 東京理科大学 総合研究機構 教授
工学博士 菅原進一

■ライブラリー価格 本体 **¥65,000** +税

■学校価格 (幼稚園・小学校のみ) 本体 **¥33,000** +税

■VHS・DVD [カラー・約11分]

■2014年・映学社作品